

あまみの風

不定期

発行元 天見地域まちづくり協議会 会長 原五郎
協力 河内長野市役所(自治協働課)



消防団が

準優勝

大阪府消防操法訓練大会で快挙



消防団は、市内10分団、240名を越える団員がおり、普段は仕事を持ちながら、火災や風水害などで現場に駆けつけ、消防署と協力して消火や警戒巡視にあたっている。消防本部に聞くと、かつて団員の多くは自営業や農林業だったが、近年では6割近くがサラリーマンとなり、勤務中の緊急出動が困難になりつつあるとのこと。

そのような中、天見・岩瀬・清水地区には、第7分団24名が任命され、日頃から火訓練や水防訓練、応急手当て

など、様々な訓練を行っている。

去る9月2日(日)、第7分団は大東市で開催された大阪府の消防操法訓練大会に、南河内地区のポンプ操法の代表として出場し、見事に「準優勝」した。ポンプ操法とは、指揮者の指揮のもと、ホースの接続と延長、筒先の結合と操作、放水で標的を倒し、収納、集合までを競うもので、高度な規律や迅速・的確な技術が要求される。

団員たちは、大会に向けて4月から週3回、それぞれの仕事が終わってか

ら消防署に集まり、署員の指導のもと厳しい夜間訓練を重ね、選手のほかに様々なフォローを含め全員で一致団結し、訓練の成果を見事に発揮した。

団員たちは、「大会に向けて若い団員も加入し、猛暑に負けず訓練に励みました。多くの方に支えてもらって、応援してもらって、心から感謝しています。」と口々に語っていた。

天見の未来アンケート

結果報告

11月16日、天見を愛する人よ集まれ！



※写真はイメージです。

問1 天見地域への想いや「やりたいこと」「実現したい夢」はありますか。

ある 59人

天見の住民が力を合わせて地域課題の解決に取り組むための組織、それが天見地域まちづくり協議会。
去る5月、深刻な担い手の不足を解消すべく、天見の未来を問うアンケートを実施したところ、多くの意見が寄せられた。

天見6地区の住民（約400戸）と天見小学校の保護者（約50人）の中から、「やりたいこと、実現したい夢」があると答えた人が50人を超えた。

問2 やりたいこと、夢とは。

- ① 田舎生活や農林業の体験 27人
- ② 民泊などの空き家の活用 12人
- ③ 新聞やSNSでの発信 12人
- ④ 若者が集まる場づくり 15人
- ⑤ 子育て世代向けサービス 11人
- ⑥ 教育環境の充実 11人
- ⑦ 子育て世代の転入促進 25人
- ⑧ 高齢者の生活支援 21人
- ⑨ 防災や防犯など 13人
- ⑩ 農林業の担い手育成 21人
- ⑪ NPO法人などとの交流 15人

そもそも、右記の項目は、いずれも地域別計画で定めた天見の将来像「豊かな自然を身近に体感！夢と活力を未来につなぐまち」に基づき、住民が協力して実施する予定の事業である。

しかし、担い手がいなければ「絵に描いた餅」ではない。これらの実現には、住民の参画が欠かせない。

当会では、このアンケートで、新たな担い手を発掘する可能性が芽生えたのではないかと考えている。

自由回答では

アンケートの回答には、住民と保護者のあわせて29人から、自由提案の記入があった（左記のとおり）。

【子育て世代にできそうなこと】

- ★子どもを産み育てるための環境を整えれば、若者が増えるのではないか。例えば親が仕事から帰るまで預かる場所。友だち同士で集まる場所。宿題や勉強のサポートなどを行う。
- ★アスレチックの復活、虫取り体験など有料でもいい親子対象イベント

【若者にできそうなこと】

- ★耕作放棄地の活用、それが若者の働く場になれば嬉しい。
- ★無農薬や有機農業をしたい若者が集まるような農業体験村をつくる。



【高齢者同士にできそうなこと】

- ★花見会のような住民同士の交流。
- ★生活支援コーディネータの活用。
- ★年配者がお茶を飲み、小物を作るといった憩いの場づくり。
- ★福祉活動（サロンや訪問など）を通じて、6地区の連携をもっと深める。
- ★日常の買い物などで、高齢者を迎える移動支援サービスを行う。
- ★介護施設があればいいな（誘致）。

【自然を利用した活動】

- ★遊歩道に覆いかぶさっている樹木の撤去、サクラやツツシの植栽を。
- ★ホタルやササユリやトンボが減らないように保護。ホタルを増やす
- ★クヌギが多いので、誰かがシイタケを栽培して販売してはどうか。

【観光集客】

- ★天見の魅力を知るツアーをつくる。
- ★空き家が増えるので民泊に利用。
- ★駅前にお茶を飲めるようなおしゃれなカフェなどの休憩場所をつくる。

【有事に備えて】

- ★地震や台風などで国道が通行できなくなったことを想定した避難訓練。

【自分の紹介】

- ★天見生がいがいサロンは13周年を迎え、パソコン、囲碁、農園などを補助金を受けて日々、前進している。

【移住促進】

- ★芸術系やIT系など在宅で仕事をする人に、静かな空き家を貸し出す。

【具体性なし】

- ★何でもいいので日本や世界で1番になつてその分野でモデルになる。
- ★どこにもないキラッと光る魅力を。
- ★土地の規制を緩和して、新築住宅開発、農地の宅地化。下水道の整備。
- ★電車しかないのでコミュニティバスを走らせてほしい。人身事故で電車が止まってもバスで通勤できるように。
- ★無医地域では通院や治療に不便なので出張診療所を開設してほしい。
- ★現在の活動をもっと外に知らせる。
- ★行政はあてにならないので、一歩みだせる勇氣あるメンバーを探して、新しいチームを立ち上げる。
- ★田舎暮らしに関心のある地域外の人に、村の行事に参加してもらう。

未来は私たちの手に

以上のことから、当会では、「やりたいうことや夢」で選択の多かった

- ① 田舎生活や農林業の体験
- ⑦ 子育て世代の転入促進
- ⑧ 高齢者の生活支援
- ⑩ 農林業の担い手育成

の4つのテーマについて、具体的な取り組みを検討する。皆さんの「夢」の実現に向け、積極的な参画を期待する。

お手伝いできる人 集合！

とき 平成30年11月16日（金）

午後7時30分～9時

ところ 上岩瀬自治会館

（千早口駅前・駐車は友邦へ）

内容 天見のことを語り合う

参加費 無料

申込 前日まで（左記へ）

080-80023（原会長宅）

090-85770-6221（東）

terumio0822@gmail.com



シリーズ福祉



各地区の福祉委員会の活動と福祉委員の横顔を順次紹介していく「シリーズ福祉」をスタートする。

まず、記念すべき第1回は、天見地区福祉委員会の西尾猛委員長にお話しを聞いた。

天見地区福祉委員長の西尾（流谷自治会）です。

日頃は、皆様方には絶大なるご協力を頂き、誠に有難うございます。

前任の門林敏博さんから委員長を預かり早4年目に入りました。これまで大きな活動とはいえないまでも地道に各地区で活動できるようにと、環境づくりに最大の重点を置き、それぞれの福祉委員のレベル向上に向けて研修、講演、交流会などに積極的に参加していただき、各地区でそれぞれの福祉委員がリーダーシップを發揮していただける状況にあります。

天見地区では、人口が886人、世帯数が405戸（平成29年3月末）と1000人を割り、高齢化・少子化が進行しています。

福祉活動は、子どもから高齢者と幅が広いのですが、天見地区としては高齢者宅を1件1件訪問し、何か手助けできることがないか、「ミニケーションを図る中で「元気な高齢者」になっていただけのような活動を目指していきたい」と常々思っています。

天見地区では、現在、福祉委員は総勢44名となっています。今後は、高齢化社会が増々進み、福祉委員の人数を増やすことも必要ですが、横の繋がりをもより一層強くし、助け合い（共助）精神を高めていくことが必要ではないでしょうか。

毎年4月には、天見地区福祉委員会の最大のイベント「桜の花見会」を天見駅前で開催し（写真）、200名を超える方に参加いただいています。



◆お楽しみに◆
◆報告する予定◆
◆福祉委員会の活動状況を連載で◆

地域まちづくり協議会の
ウォーキングに参加しよう
とき 11月17日（土） 11時～15時
コース 天見駅11時に集合→流谷八幡宮（昼食）→十三仏→天見駅で解散
申込 11月13日までに各自自治会長へ